

第4学年 国語科学習指導案

1組27名 授業者 上園 弘太郎

- 1 単元 きょうみをもったところを中心に、しょうかいしよう
(教材「ウナギのなぞを追って」光村図書4年下)

2 単元の目標

- (1) 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くことができる。
【知識及び技能 知(3)オ】
- (2) 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。
【思考力、判断力、表現力等 思C(1)ウ】
- (3) 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。
【思考力、判断力、表現力等 思C(1)オ】
- (4) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。
【学びに向かう力、人間性等】

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○ 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。	○ 「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約している。 ○ 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。	○ 教材文や科学読み物を進んで読み、これまでの学習を生かしながら、興味をもったところを中心に要約したり、感想を書いたりして友達に紹介しようとしている。

4 単元について

(1) 単元の位置とねらい

これまでに子供たちは、「筆者の考えをとらえて、自分の考えを発表しよう『思いやりのデザイン』『アップとルーズで伝える』」を通して、筆者の考えとそれを支える理由や事例との関係について理解し、感想や考えをもつ学習に取り組んできた。また、「中心となる語や文を見つけて要約し、調べたことを書こう。『世界にはほこる和紙』『伝統工芸のよさを伝えよう』」を通して、段落相互の関係を捉えながら、中心となる語や文を読み取り、筆者の考えとそれを支える理由を中心に200字程度で要約する学習に取り組んできた。

そこで、本単元では、興味をもったところを中心に400字程度で要約する学習活動を通して、一人ひとりの文章への着目の仕方や感想の違いに気付くことをねらいとして、「きょうみをもったところを中心にしょうかいしよう『ウナギのなぞを追って』」を設定した。

この学習は、第5学年において、筆者の説明の仕方や文章構成に着目して要旨を捉える「文章の要旨をとらえ、自分の考えを発表しよう『見立てる』『言葉の意味が分かること』」の学習に発展していく。また、興味をもったところを中心に文章の内容を要約する学習は、今後の読書生活や興味をもった本を紹介する活動に生かすことができる。

(2) 教材について

教材「ウナギのなぞを追って」は、長期にわたるウナギの産卵場所を探る調査報告文である。一行空きにより、「初め」「中」「終わり」の三部構成に分けることができる。「初め」には、ウナギの生態や謎についての話題提示がなされている。「中」には、長年の調査の結果、その謎が少しずつ明らかになっていくプロセスが事実と考察を繰り返す形で書かれている。また、時間の経過とレプトセファルス(ウナギ)の体長について、数値に着目することで調査のプロセスが整理できるようになっている。

「終わり」には、「ウナギの産卵場所が判明したが、まだまだ謎が残されている」という筆者の主張が書かれている。筆者の主張は、教材名「ウナギのなぞを追って」と対応する形で書かれており、尾括型であることを捉えやすい。加えて、文章全体を通して、本文に対応した地図や写真、図等が示されているため、文章だけで捉えづらい事柄が理解しやすくなっている。

また、調査過程で明らかになる事実と、それに対する考察の面白さ、長い年月をかけて地道な努力を重ねる研究者の姿勢、前半のマクロな視点からの経過報告と後半の描写を交えたミクロな視点による報告等、多様な興味に応えうる文章である。更に、「もっと読もう」と併せて読むことで、筆者の研究に対する情熱や使命感を捉えることができる。そのため、読み手の様々な目的に応じた読み取りを可能とする。これらのことから、本単元の中心となる学習活動である、目的に応じた要約に適した教材文であると言える。

(3) 子供の実態 (令和5年12月4日 27人)

学習内容に関すること	
調査1	用語「要約」の意味を答える。 正答(25人) 誤答(2人)
調査2	説明文の中から事例を全て見つける。 全問正答(3人) 一部正答(9人) 誤答(15人)
調査3	説明文読み、正しい要約を選ぶ。 正しい要約文を選び、その理由を答えることができる。(10人) 【理由】・筆者の考えに着目して答えているもの(7人) ・事例に着目して答えているもの(1人) ・筆者の考えと事例に着目して答えているもの(2人) 正しい要約文を選ぶことができる。(3人) 正しい要約文を選ぶことができない。(14人)
調査4	読書に対する意識②「図書室で、どんなジャンルの本を読むか」 物語(20人) 科学読み物(10人) 図鑑(8人) 調べ物に使う本(9人) その他【伝記・クイズ、歴史】(11人)
学びの姿に関すること	
調査5	イ、ウ「自分の問い」の解決への見通しを立て、自分の考えを見出すことへの意識 ○ 授業で、どうしたらめあてや問題を解決できそうか、自分の考えをもち、手順や結果を予想しながら取り組んでいる。 当てはまる(8人) 少し当てはまる(14人) あまり当てはまらない(2人) 当てはまらない(1人)
調査6	カ 学びを振り返り、自己の変容と学ぶよさを自覚していることへの意識 ○ 授業で分かるようになったり、新しい発見があったりと、学んだことが深まっていると感じる。 当てはまる(12人) 少し当てはまる(7人) あまり当てはまらない(6人) 当てはまらない(0人)

【学習内容に関する調査】の調査1～3から、ほとんどの子供が要約の意味を理解できているが、半数の子供が正しい要約文を選択できていないことが分かった。要約するためには筆者の考えに着目し、分量に応じて支える理由や事例を入れながらまとめていくことを確認する必要がある。調査4から、物語文を好んで読む割合が最も高く、科学読み物を好んで読む割合は高くない。その科学読み物の面白さに気付き、読んでみたいと思えるような手立てが必要である。

【学びの姿に関する調査】の調査5から、3名の子供が、解決の見通しを立て自分の考えを見出すことができていないことが分かる。全員が見通しをもてるように、全体への手立てに加え個別の支援を行っていききたい。また、調査6から、振り返りを行い自己の変容と学びの良さを実感していない子供が6名いることが分かる。「あまり当てはまらない」と答えた子供の意識や実感が高めるように、毎時間の最後の自分がどれくらい学習内容を理解できているか、自覚化できるような手立てを講じていきたい。

5 指導上の留意点

(イ) 「解決の見通しをもつ姿」を表出するために

本単元では、自分で選んだ科学読み物の紹介カードを書くことがゴールである。子供たちがどのような紹介カードを書くか解決の見通しをもてるようにするために、単元の導入で、3年生で学習した「ありの行列」の「科学読み物紹介カード」を示す。何が書かれているかを尋ねることで、紹介カードのモデルに「どんな話か」「着目した点」「着目した点に対応した要約文」「感想」が書かれていることを確認する。このような紹介カードを作るために、現時点で書けそうなところ、書くことが難しそうところがどこか子供たちに聞いていながら、本単元8時間通してどのようなことを学習する必要があるか、子供たちと話し合いながら学習計画を立てていく。

(ウ) 「自分の考えを見いだす姿」を表出するために

単元の展開では、まず、本文の概要を掴ませるために、「ウナギのどんななぞを追ったの?」「ウナギのなぞを追ってどうなったの?」と調査の内容と結果を問い、「ウナギがどこでたまごを産むのかというなぞを明らかにする話」であることを確認する。その際に、三部構成の初め・終わりを読めば、本文の概要を掴めることに気付かせるために、説明文マップ(尾括型)を本文の叙述と照らし合わせながら、文末表現、繰り返し出てくる言葉に着目させる。紹介カードに載せる要約文に必要な文を教科書から選ぶ活動では、短く伝えるという要約の目的を押さえながら、文を絞っていくことを確認する。

(カ) 「自己の変容を自覚し学ぶよさを実感する姿」を表出するために

振り返りでは、毎時間の自己の変容を自覚できるようにするために、科学読み物紹介カードを書くことができそうかについて、「とても」「まあまあ」「あまり」「まったく」の中から自己評価する。また、第3時～第8時は、ロイロノートの振り返りカードに、①理解・内容(自分が学んだこと、思ったこと)、②方法・活用(自分が身につけた技能やその応用)、③納得(他者の意見を聞いて得た新たな洞察)、④追究(他者の意見を聞き、さらに知識を深めたいと感じた点)の4観点で振り返る場を設定する。なお、子供の振り返りは、教室内の学習計画と対応させる形でいくつかピックアップして掲示し、子供たちが振り返り方のイメージをもてるようにする。単元終末には、毎時間の振り返りを基に、単元全体の振り返りを行う。

6 指導計画（総時数8時間）

過程	主な学習活動		時間	知	思	主
第一次	1	<ul style="list-style-type: none"> ゴールモデルを見て、単元のゴールイメージをもつ。 【単元のゴール】きょうみをもったところを中心に科学読み物紹介カードを作ろう。 紹介カードを書く科学読み物を選ぶ。 	1	○		○
	2	<ul style="list-style-type: none"> 学習計画を立てる。 「ウナギのなぞを追って」を読んで、興味の中心がどこか選ぶ。 	1			
第二次	3	<ul style="list-style-type: none"> 「ウナギのなぞを追って」の三部構成、筆者の考え、要点を押さえる。 「ウナギのなぞを追って」の紹介カードに「どんな話か」「何に着目したか」を書く。 	1			
	4	<ul style="list-style-type: none"> 中に書いてあることを時系列ごとに調査結果（いつ、場所、発見したもの）を読み取り、表に整理する。 	1			
	5 本時	<ul style="list-style-type: none"> 「ウナギのなぞを追って」の要約を書くために必要な文を選び、興味の中心が同じ友達同士で話し合う。 	1		○	
	6	<ul style="list-style-type: none"> 「ウナギのなぞを追って」の紹介カードに「要約」「感想」を書き、完成させる。 	1		○	
第三次	7	<ul style="list-style-type: none"> 科学読み物の紹介カード（要約・感想）を書き始める。 	1	○		
	8	<ul style="list-style-type: none"> 科学読み物の紹介カード（要約・感想）を完成させ、読み合う。単元を振り返る。 	1		○	○

7 本時（5／8）

(1) 目標

目的を意識して、中心となる語や文を見付けることができる。

(2) 評価基準

目的を意識して、中心となる語や文を見付けている。

(3) 想定する振り返り

〈振り返りの視点〉

①できるようになったこと、わかったこと、気付いたこと ②見方・考え方（理由や根拠）

③参考になった友達の考え ④これから（できるようになりたいこと、新たな考え）

① 要約に必要な文が何か分かった。/伝えたい内容によって必要な文が違ってくることが分かった。/この調子で要約の文章が書けそう。

② 自分のグループと他のグループの文を比べたら全然違っていた。伝えたい内容が違うからだと思う。でも、どのグループにも必要な文を選ぶ根拠があるというところは同じだった。

③ ○○さんは、僕と同じで「ミリメートル」と書いてあるところを見て文を選んでいて。「これでいいんだ。」と思えた。（強固）

○○さんは、レプトセファルス大きさだけでなく、たまごのことについても書かれている文も選んでいた（付加）

僕は「小さい」という言葉を見て文を選んだけど、○○さんは、ミリメートルと書いてある文を選んでいて。具体的に体長が分かるから、そっちの方がいいなと思った。（修正）

④ 友達と本の紹介をするときにも、面白いと思ったところを中心に要約すれば、もっと相手に伝わりやすくなると思う。

(4) 本時で働かせたい言葉による見方・考え方（引き出したい子供の姿）

- 要約する過程で行う、グループ内で必要な叙述を精査する活動を通して、伝えたい内容（目的）に応じて、必要不可欠な文があることに気付く姿。
- 要約する過程で、異なるグループが選んだ文を知ることによって、伝えたい内容（目的）に応じて選んだ文が異なることに気付く姿。

(5) 本時の展開

子供の意識や反応

○ 指導の手立て

※ 評価

過程	時間	主な学習活動	指導の手立て
問いをもつ・見通す	10分	<p>1 本時の学習の流れを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【学習の流れ】</p> <p>(1) 要約文に必要なと思う教科書の文（5文～10文程度）に線を引く。【個人】</p> <p>(2) 絶対に外せない必要な文とその理由を伝え合う。【グループ，全体】</p> <p>(3) 学習をまとめて，振り返る。【グループ，個人】</p> </div> <p>2 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>要約に必要な文を選ぶにはどうすればよいのだろうか。</p> </div> <p>3 学習の見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 科学読み物紹介カードの完成形をイメージできるようにするために，ゴールモデルとして，『『ありの行列』紹介カード』を提示する。（イ） ○ 単元の見通しをもたせるために，単元の全体計画を示し，単元のめあてや最終ゴール，本時の位置づけについて確認する。（イ） ○ 本時の活動について見通しをもたせるために，どのような文章を抜き出せばよいかについて，全体で確認する。（イ）
自分の考えをもつ・広げ深める	20分	<p>4 要約文に必要な叙述を選ぶ。</p> <p>(1) 要約文に必要なと思う教科書の叙述に線を引き，必要な文を探す。（5文～10文程度）</p> <p>(2) 絶対に外せない文がどの文を決め，その理由を話し合う。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>【Lv.1】レプトセファルの大きさの変化</p> <p>「体長」，「ミリメートル」，「小さい」が書いてある文を選べば良さそう。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>【Lv.2】長い年数かかったこと</p> <p>「〇年〇月〇日（年月日）」，「〇年（年数）」が書いてある文を選べば良さそう。</p> </div> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>・選んだ文で，本当に合っているのかな？</p> <p>・理由を聞かれたら，はっきり答えられないな。</p> <p>・たくさん線を引いたけど，どの文も大事そうに見えるよ。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>特に，調査の初めと終わりが分かる文を選べば良さそう。</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>「大きさの変化」が分かればよいか。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>「長い年数かかったこと」が分かればよいか。</p> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 働かせた見方・考え方を意識できるようにするために，その文を選んだ理由を話し合う活動を設定する。（エ） ○ 選んだ文が要約に必要な理由を考えられるようにするために，「選んだ文に共通していることはあるかな？」「こっちの文ではだめなの？」と問いかける。（エ） ○ 要約文を選ぶことが難しいグループに対しては，要約文のモデルや穴埋めワークシートを示し，どんな文を選ぶ必要があるか気付けるように働きかける。（ウ） ○ 早く終わったグループは，着目した点が同じ他のグループと交流するように促す。（エ）
再構築する・振り返る	15分	<p>5 学習のまとめをする。</p> <p>(1) グループごとにまとめる。</p> <p>(2) グループごとのまとめを発表する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>【Lv.1】レプトセファルの大きさの変化</p> <p>「大きさの変化」が分かるように，「レプトセファルの大きさ」が書かれている文を選べばよい。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>【Lv.2】長い年数かかったこと</p> <p>「長い年数かかったこと」が分かるように，かかった年数や，具体的にいつか（年月日）が書かれている文を選べばよい。</p> </div> </div> <p>(3) 全体でのまとめを行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>伝えたいところについて書かれている文を必ず入れればよさそう。</p> </div> <p>6 本時の学習を振り返る。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のグループと他のグループの文を比べたら全然違っていった。伝えたい内容が違うからだと思う。でも，どのグループにも必要な文を選ぶ根拠があるというところは同じだった。 ・友達と本の紹介をするときにも，面白いと思ったところを中心に要約すれば，もっと相手に伝わりやすくなると思う。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ まとめることができないグループに対しては，「どんな文を選んだか」「選んだ理由」をまとめる観点として示す。 ○ もしもグループのまとめが逆だったらだめなのか問いかけることで，伝えたいところについて書かれている文を入れることが重要であるという気付きを促す。 ○ 自己の変容を明確にするために，振り返りを書き，ロイロノートで提出する。科学読み物紹介カードを書く活動に対する自己の変容に気付けるようにするために，自信メーターを使って振り返る。（カ） <p>※ 目的に合った，語や文を見付けることができていたか。（記述）</p>

